

過去 400 年の京都の地震活動は不変か? 上賀茂神社の記録に基づく解析



Search for 400 years of Earthquakes in and Around Kyoto Basin Based on the Long-term Diary of Kamigamo Shrine

東京大学 加納 靖之

本研究では、「有感地震の頻度や震央分布は 400 年前から現在にわたって不変なのか?」という問いに答えることを目的として、京都周辺における過去 400 年間の有感地震の発生状況を、京都に古くから存在する寺社史料の詳細な分析から理解しようとするものである。地震研究者と歴史研究者の協力により、史料から得られた地震発生データと、現在の観測データとを最新の地震統計モデルに基づいて比較分析する。

上記の目的を達成するため、京都周辺における過去 400 年間の有感地震の発生状況を、京都に古くから存在する寺社史料にもとづいて整理した。助成期間中には以下の(1)から(5)の 4 項目により研究をおこなった。特に特に賀茂別雷神社（上賀茂神社）文書、なかでも「社記」に注目した。「社記」は寛文五年（1665 年）以降、明治にいたる 200 年強の記録であり、神社の儀式や運営、朝廷や幕府の動向、京都の町や村のようすが詳細に記されている。

(1) 賀茂別雷神社（上賀茂神社）文書の「社記」等の撮影を実施した。2022 年度は、天保二年正月から弘化二年二月までの「社記」合計 175 点を撮影した。2023 年度は、明和九年二月から十一月まで、弘化二年三月から弘化四年十二月まで、慶応二年正月から明治五年正月までの「社記」合計 76 点のほか、造営や修復に関係する史料 28 点も撮影した。

(2) 撮影した賀茂別雷神社文書の「社記」を解読した。特に文政十三年（天保元年）七月二日（1830 年 8 月 19 日）に発生した文政京都地震に注目し、同年七月から九月の「社記仮附」全文を解読した。これをもとに、境内および周辺の被害状況をもとにした詳細な震度分布の推定や、地震被害への対応を通した神社と社領との関係の分析、神社の祈禱に関する分析をおこなった。また、文政十三年から天保十一年と嘉永元年の合計 12 年分の「社記」から天気付を抜粋、解読し表にまとめた。

(3) 賀茂別雷神社以外の既存の史料について、地震史料集テキストデータベースを活用して再分析した。また、「みんなで翻刻」の「賀茂社関係文書翻刻プロジェクト」に登録された国立国会図書館所蔵の『賀茂社記録』96 冊を対象として、「地震」をキーワードとして検索したところ以下のような結果であった。これまで知られていなかった地震を 3 つ発見した。

(4) 上記(1)から(3)により得た史料データを一覧表や GIS データとしてまとめるための作業手順や項目を検討した。

(5) 文理融合、分野融合研究の強みを活かし、賀茂別雷神社文書にも記録される低緯度オーロラなどの天文記事についても検討した。

【キーワード】 歴史地震、京都の地震活動、寺社史料

【参考文献】

・加納靖之・杉森玲子・榎原雅治・佐竹健治，歴史のなかの地震・噴火：過去がしめす未来，東京大学出版会，ISBN:9784130637169，260p，2021.

・大邑潤三，文政京都地震(1830)による被害と起震断層の再検討，歴史地震，29，51-60，2014.